

# 図書館報

# 光丘

No.150



「図書館報 光丘」は今号をもちまして第二五〇号を迎えることができました。皆様のご支援、ご鞭撻の賜物と心から感謝申し上げます。

本間家八代目当主光弥が三代目当主光丘の遺志を継ぎ、先祖伝来の蔵書二万冊と建設費、及び維持基金の十万円を寄贈して財団法人「光丘文庫」を設立した大正十二年（一九二三年）から約九十年以上が経過しました。

施設等の老朽化により管理が適切に行えない状況になっていることから、平成二十八年八月から市役所中町庁舎へ収蔵資料と文庫の機能の移転作業を行ってきましたが、平成二十九年二月から「市立図書館中町分館」として閲覧が再開できるようになりました。移転作業期間中は臨時休館となり、ご迷惑をおかけしましたが、皆様のご理解とご協力に深く感謝いたします。光丘文庫建物のあり方については、今後実施する国文化財指定に向けた調査結果等を踏まえて、

## 創刊一五〇号を迎えて

酒田市長 丸山 至

検討してまいります。

「一五〇」と言えば昨年は日本とイタリアが修好通商条約を締結し、国交を樹立した年から一五〇年目に当たりました。この大きな節目を記念し、日伊国交一五〇周年事業としてローマ市で土門拳写真展が行われ、私もオーブニング式典等に市を代表して出席しました。

写真展は駐イタリア日本国大使館や土門拳記念館の多大なご協力もあり、昨年五月二十七日の公開開始から九月十八日の閉館まで、実に四万二千人を超える大勢の方々から訪れていただきました。

ローマ訪問で面白い発見があったのが、ナポレオン博物館があったことです。当館に



ナポレオン博物館

は庄内出身の軍人・石原莞爾が収集したナポレオンに関する蔵書が多くあります。ナポレオンはフランス領土のコルシカ島出身で、一度もローマに来たことはありませんが、母親はローマ人で自身もローマ人だったという説もあるそうです。博物館は、イギリスを中心とした連合軍との「ワテルローの戦い」でナポレオンが失脚した後に、親族が実際に住んでいた由緒ある建物でした。

ナポレオンはフランスの皇帝としてフランスのため、ヨーロッパのため、ヨーロッパ統合体を作ったことで有名です。アルプス山脈を超えて北イタリアに入る奇襲策を取ってオーストリア軍に勝利するなど、軍人として優れた才能を発揮しました。ナポレオンの戦術等に傾倒した石原莞爾は、ドイツ留学時に蔵書を収集し、その多くが石原莞爾のご親族の寄贈により当館に保存してあります。ナポレオンの戦術が記載された蔵書

は日本では少ないのですが、英語、フランス語、ドイツ語の貴重な原書があることから、これまで多くの研究者が訪れています。



ナポレオンが作ったパリの凱旋門のモデルになったローマの凱旋門

ローマの土門拳写真展成功をきっかけとし、今年はいタリア経済の中心地であるミラノで土門拳写真展を開催できないか検討されています。街のシンボルであるミラノ大聖堂はナポレオンが完成させたとも言われています。「リーダーとは、希望を配る人のことだ」は、ナポレオンの言葉です。都市の規模も違い、遠く細いつながりではありますが、土門拳を通じてイタリアと酒田の関係だけでなく、ナポレオンを通じて文化交流もできないか今後検討していく所存です。

# 案外目にするこない

## 白鳥の生態(六)

日本白鳥の会理事 角 田 分

### 北上飛去と雪解け前線

#### 北上飛去に二ヶ月

二月も下旬になると白鳥がシベリアへ旅立ったというニュースを見聞きするようになります(報道では白鳥がシベリアへとされていることが多いが、日本に飛来する多くの白鳥の本当の故郷(繁殖地)は極東ロシアという地域です)。

私も白鳥の生態を追いかけて始めた頃は、酒田から飛び立った白鳥が本当にそのまま繁殖地まで飛んでいくものと思っていました。でも実は違うのです。

二月末に酒田を飛び立った白鳥が、日本最北端の中継地宗谷地方に到達するのはほぼ三月下旬なのです。そして本当に日本を後にするのは実は四月中旬から五月の連休明け頃です。

翼がある白鳥ですから、飛

んで行くと思うと数日で宗谷地方には到達できます。南下飛来の時、宗谷地方で初飛来が確認された四日後には、

庄内で白鳥の飛来がほぼ確認できています。今年もそうでした。

では、南下飛来の際に四日で到達できていた白鳥が北上飛去には、なぜ二ヶ月以上費やしているのでしょうか。

それは東北北部や北海道の雪解けが遅いからだとは考えています。白鳥は10cm以上の積雪があると採食がほとんどできません。それで白鳥は、積雪が10cm以下の地点まで一旦北上して採食し、更に北の地方の雪解けを待ちながら北上しているのです。この積雪10cm以下になった地点を結んで『雪解け前線』と名付けました。白鳥はこの雪解け前線の北上と共に北上飛去していくのです。



図1 雪解け前線の状況

ちなみに二〇一二年は二月二十八日に酒田から白鳥の北帰行が始まったと新聞に記されています。その年の一〇cm以下の地点は図1の通りです。酒田市では三月上旬に雪が一〇cm以下なのに、最北の稚内市では、四月中旬にならないと採食出来る状況ではないのです。二月末に酒田を旅立ってもまらず、秋田市辺りまでしか行けないのです。もっと北へ行っても水田に雪があって採食出来ないのです。

### 北上ルートを 変更して

本州で越冬した白鳥の北上飛去は、一月下旬には始まります。それには日本海側も太

平洋側でも雪解けの早い海岸沿いのルートが使われます。海岸ルートは二月から三月上旬までがピークです。三月中旬を過ぎると北上する多くの白鳥は、雪解けの遅い本州中央部にある脊梁山脈沿いにルートを変更して行きます。東北地方でも主に会津地方山間部の水田や山形盆地、秋田内陸部の国道13号線周辺の残雪のある水田をルートに選んで北上していくのです。これも雪解け前線を辿って行っているのです。

このように白鳥は、採食が可能な雪解け前線を追いながら、採食出来る地点まで北上して、その地域の雪解けと採食出来る植物の芽生えを求めて北上していくのです。もちろんこの動きは、北海道でも同じです。北海道では、秋に南下する白鳥が殆ど見られなかった道南や道央地域にも雪解けと共に姿が見られるようになります。

### 白鳥は道南道央では 春告げ鳥

庄内地方では、白鳥の飛来を冬間近の知らせとして見て



美深地内の牧草地 (2014年5月2日)

います。でも、北海道の道南・道央では、雪解け前線を追って姿を見せる白鳥は、春告げ鳥なのです。四月になると雪解けが一日と進む道南・道央では、水田や牧草地・河川敷等、あちこちで白鳥の姿が見られるようになります。

極東ロシアの繁殖地では雪解けが五月中旬から六月上旬頃で、白鳥は採食しながらその雪解けの頃を目指して北上を続けているのです。ちなみに五月上旬頃に日本で確認できる白鳥は、亜成鳥や一年目の幼鳥など今年繁殖できない白鳥が殆どです。繁殖可能なつがいの白鳥は、雪解け前線の最前線で雪解けが待ちきれない思いで繁殖地を目指しているのかも知れません。

# インターネット望遠鏡への招待

東北公益文科大学講師 山本裕樹

みなさんは天体観測を体験したことがあるでしょうか。天体観測をやりたくても、望遠鏡を持っていなかったり、望遠鏡のある天文台まで行く機会がなかなかないという人は多いと思います。酒田市では眺海の

森の天体観測館コスモス童夢で天体観測できますが、利用できるのは週末のみで、天気の良い日や冬は天体観測ができません。天気は左右されずに星を見るための装置として鶴岡市中央公民館にプラネタリウムがあります。天体観測とはちょっと違いますね。いつでも天体観測をしたいという望みをかなえてくれるものとして「インターネット望遠鏡」をご紹介します。

「インターネット望遠鏡」とは、遠隔地に設置した天体望遠鏡をインターネットを通じて操作し、天体観測を行うためのシステムのことで、私がたずさわっている慶應義塾大学インターネットプロジェクト(以下KITP)では、このシステム

を五藤光学研究所と共同で開発し、誰でも利用できるように無料で一般に開放しています。KITPのウェブサイトのURLは<http://www.kitp.org/>です。KITPでは、現在、国内に三カ所(府中市、横須賀市、秋田市)、海外に二カ所(アメリカのニューヨーク、イタリアのメラーテ)のインターネット望遠鏡を設置して運用しています(残念ながら何カ所かは故障中)。例えば、ニューヨークのインターネット望遠鏡を使えば、時差のために日本の昼間の時間帯でもリアルタイムでニューヨークの夜空を天体観測できます。また、酒田市の天気が悪くて星が見えなくても、関東が晴れていれば横須賀市のインターネット望遠鏡で星を見ることが出来ます。



図1 ニューヨークのサブスコープで撮影した月の画像

インターネット望遠鏡にはサブスコープ(六CM屈折望遠鏡)とメインスコープ(二〇CM反射望遠鏡)が備わっています。それぞれのスコープにはカメラが接続されており、それで撮影された画像や映像を見ることが出来ます。サブスコープは月、銀河、星雲などの観測に適しており、メインスコープは月面や惑星などの観測に適しています。図1はニューヨークのサブスコープで撮影した月の画像、図2は横須賀市のメインスコープで撮影した月面の画像です。月が出ている時間が合



図2 横須賀市のメインスコープで撮影した月面の画像

えば、ニューヨークと日本から同時に月を見るなんてことも出来ます。KITPではインターネット望遠鏡を単に天体を見るだけでなく、天文教育にも使えるように研究活動を行っています。インターネット望遠鏡は学校でも利用できるもので、授業で活用したり、教科書に載っている天文に関する公式や理論が本当に正しいのかを自らの観測によって確かめたりすることが出来ます。私は二〇一一年度から鶴岡南高校で高校生に對し、インターネット望遠鏡を活用したテーマでゼミ(鶴南ゼミ)の指導を行っています。例えば、木星の衛星(ガリレオ衛星)の動きを観測してケプラーの第三法則から木星の質量を求めるテーマ、セファイド変光星を観測して変光周期からそ

の星までの距離を求めるテーマなどをゼミで取り組みました。これらのテーマについての詳細は、書籍「インターネット望遠鏡で観測!現代天文学入門(森北出版)」をご覧ください。最近では太陽系外の恒星系の惑星(系外惑星)の観測にも取り組んでいます。今後の活動としては、インターネット望遠鏡の南半球への設置を目指す予定です。現在、インターネット望遠鏡はすべて北半球にしか設置されていません。南半球では北半球から見るのが難しい南十字星やマゼラン雲などの魅力的な天体が見られるため、南半球にどうか設置したいと考えていますが、実現するとしてもまだまだ先の話になります。酒田市がある日本海側は、冬はくもりがちで星を見ようにもなかなか晴れることがありません。晴れたとしても寒さに耐えながら天体観測するのはなかなかつらいものがあります(それが天体観測というものだと、人がいるかもしれないが...). インターネット望遠鏡を使って、こたつでミカンを食べながら天体観測というのはいかがでしょうか。

吉野弘さんの詩をめぐる対話 第6回

「幸福」とは何かを問い続ける詩人

酒田・詩の朗読会 主宰 阿蘇孝子  
月刊SPOON元編集長 佐藤晶子

佐藤 吉野さんの全詩集を見

ると、「幸福」「幸い」「幸せ」

「幸」という言葉が非常に多い

ことに気づきます。吉野さんは

「幸福」とは何かを問い続けた

「幸福論の詩人」であると言っ

てもいいのではないのでしょうか。

阿蘇 そうですね。「一枚の写

真」では、幼い娘たちの成長を

カメラのレンズを通してほほえ

ましく見つめる父。その光景を

優しくくるみ、父の指に指を重

ねて、シャッターを押したもの

がある。「立ち話」では、母親

と子どもたちの弾む会話を澄ん

だ光に包み、遠くにいる詩人に

見せようとしたものがある。日

常の何げない幸せを描きながら、

二重三重の構造を用いて、幸福

とは、傍観して初めて見えてく

るものではないかと暗示してい

る。そのことを端的に表してい

るのが「虹の足」だと思います。

佐藤 「虹の足」は、吉野さん

の実体験から生まれた作品です。

群馬県の榛名山をバスに乗って

揺られていた吉野さんは、ふも



©SPOON 1991

吉野弘

(よしの・ひろし 1926~2014)

酒田市出身。酒田市琢成第  
二尋常小学校、酒田市立商  
業学校を卒業後、石油組合  
に入社。戦後は労働組合活  
動に力を入れ、1952年、「I  
was born」で詩壇デビュー。  
1957年、酒田の「消息」に  
参加。1972年、第4回詩学  
賞を受賞。1994年、『吉野  
弘全詩集』を刊行。

阿蘇 「漢字喜遊曲」の一つ、  
「畢と黙と表裏」の「表裏」の  
項に、「裏」の中に「表」が  
あります。裏を見れば表もわか  
るのが世の常という一節があ  
りますが、まさに、不幸や辛苦

を思わずして、幸福が描けるか  
というのが吉野さんの心情だっ  
ような気がするのです。たとえ

ば、「忘れられて——漁村小景」  
や「病院の庭の芝生で」「ほぐ  
す」「四つ葉のクローバー」な  
どは、そんな思いが昇華された

作品だと思えます。  
佐藤 「忘れられて——漁村小  
景」では、「不幸は、脳裡に／  
重石のように宿ってしまうが／  
幸福は、むしろ／軽やかに忘れ

られるのだ／もちろん／頑健な  
親たちも／子供たちから、きれ  
いに忘れられて」とあります。

「四つ葉のクローバー」には、  
「若い頃、心に刻んだ三木清の  
言葉へ幸福の要求ほど良心的な

ものがあるであろうかを私は  
なつかしく思い出す」という一

節があります。戦時下の少年だっ  
た吉野さんは、自分の幸福を追  
求するのは非国民であるという

風潮の中で生きざるを得なかつ  
た。戦後、三木清の『人生論ノ  
ート』の一節に触れて、目から

ウロコが落ちたように、「そう  
か、幸福を求めてもいいんだ。  
それこそが、この世に生まれた  
人間が生涯追求すべき主題なん  
だ」と心が解放されるのを感じ  
たのだと思います。その一方で、  
幸福のシンボルとされる四つ葉  
のクローバーが、自然界では奇  
形であることに疑問を呈して、  
戦後日本において「幸福」の名  
のもとに求められた、貪欲なま  
での欲望の追求に対して警鐘を  
鳴らしてもいるんですね。  
阿蘇 「冷蔵庫に」でも、深夜、  
生きものみたいになっっている  
冷蔵庫に、人間の真似をするな  
機械には機械の幸福があるのだ  
と吉野さんは語りかける。ユー  
モラスな語り口が、逆説的に、  
人間にとっての幸せとは何か、  
と問いかけてくる。立ち止まり、  
少し考えてみよう、と。  
極端な言い方をすると、吉野  
さんの全詩が「幸福」というキ  
ーワードで貫かれている。そし  
て、何事かが起こってから幸せ  
だったと気づくようであったは  
ならない。今ここにある、何事

もないことが幸せなのだ。なん  
でもない、さりげない日常を心  
にとどめ、大切にしなければな  
らない。それぞれに、さまざま  
な幸せの形があるのだから……。  
そんなことを教えてくれている  
ように思えるのです。

佐藤 吉野さんからこんなお話  
を伺ったことがあります。「僕  
は漢字遊びの作品を数多く創っ  
てきましたが、一番最初の発見  
は『幸』という漢字の中に『辛』  
があるという驚きでした」。何  
の不自由もなく生きてきた人に  
くらべて、辛い体験を乗り越え  
てきた人の感ずる幸福感は、よ  
り滋味豊かであるのかも知れな  
い。「僕らみたいに、冬にさん

ざん痛めつけられてきた者は、  
春になった時の喜びを知ってい  
ますよね。あの冬をもらって、  
春をもらおうというのは、単なる  
季節の変化ではなくて、人間の  
精神が形成される順序なのだと思  
います」。吉野さんは「不幸」  
や「辛苦」を声高で直截な嘆き、  
恨みとしては書きませんでした。  
真の幸福とは何かを追求し認識  
する努力があつてこそ、自他の、  
あるいは人類や世界にとっての、  
幸福のあるべき姿が見えてくる  
はずですよ。詩人は、静かな  
声で通奏低音のように繰り返し、  
そう問いかけていると思います。

◇光丘文庫資料紹介◇

『震災大実況図』

光丘文庫古典籍調査員  
田村真一

『震災大実況図』は明治期に起こった庄内大地震の酒田町の惨状を描いた絵巻物である。

作者は当時、酒田に滞在していた秋田の画家・生駒大飛（一八五七〜一九二二）。

『震災大実況図』は縦二五・五cm、横九百十五cmの大作である。

昭和三十八年、酒田市指定有形文化財になっている。

明治二十七年（一八九四）十月二十二日、午後五時三十七分、庄内地方を中心とした大地震が発生し、東西田川飽海三郡が甚大な被害を被った。

『酒田市史・下巻』によると酒田町の被害状況は左記の通りである。

死者百六十二人、負傷者二百二十三人。酒田町全体の戸数が三千四百六十戸に対して全焼が千七百四十七戸、全壊が二百四十戸、半壊が九十三戸、破壊三百二十九戸。合計二千四百九戸。実に酒田の民家の七割が被害を受けている。

酒田町では地震にともなう火災が死傷者を多く出した要因であった。

この時の震災の様子を伝えた『甲午大地震記』には震災の

惨劇を次のように記述している。

「無残なのは、白崎太物店の主人、此日何か法会があつて客来多いため洋燈も沢山つけてあつたが、先ず店の方が潰れると後の方より火が出て、進退これ窮まり此店ばかりで死んだもの九人ある。

主人は小児を脇に抱えたまままようやく、外にかけ出したが、どちらも火なれば、先ず船場町の方に行つたらしいが、此處は何處よりも烈しい場所、取つてかえし本町の方に向かつて、是も亦、面も当てられぬ火の手、自分の宅の傳馬町の方は最早散々の火事、益々窮して米商會社の地内にかけて込むと大きい瓶が伏さつてある。

よもや此瓶に脱れて助かる気ではなかつたでしょうが、小児を連れて居るから若しもと思つて瓶の中に這入ると最後、米商會社も焼けとうとう瓶の中で蒸し焼きになりました。誠に無残な最後、是と同じく瓶に這入つて死んだもの都合七人ありました」（原文のママ）

『震災大実況図』を描いた生駒大飛について『本莊市史（通史編Ⅱ）』（発行・本莊市）は以下のように述べる。

「生駒家は家老職を勤める知行高二〇〇石の家柄であり、父武尾（市左衛門・武雄）も二度家老職に就いている。

大飛は画工として初め柳崖・大象と号し、本莊藩の土門皓哉

（どもんこうさい）や福島柳園（ふくしまりゅうゑん）につき絵を学んだ。後京都で鱸松塘（すずきしょうとう）に詞文を、大阪に出て日根対山（ひねたいさん）に南画の教を受ける。

初期の作品には、南画風の枯淡な世界を描いたものが多い。また、対山は関西西南画の名家で仏画も得意だったので、大飛も仏画をよくしている。この時期に、巨匠富岡鉄斎と交際した形跡がみられる。しかし、対山や鉄斎から得るところが少なかったのか、大飛はその後尾形光琳の作品に私淑するようになる。」

絵巻物の中で大飛は説明文を朱色で書いている。その文字は地震の惨劇を際立たせている。

『震災大実況図』は写真とは異なり極彩色で、生き生きとした筆づかいにより臨場感に満ち、大震災の恐怖をかりたてている。

絵巻物の冒頭には明治二十七年十月二十二日、酒田大地震惨状と記されている。



一の図 傳馬町で火に追われ逃げ惑う人々

次に大飛は以下の十の場所のみだしを付け実況図を著している。

一の図・傳馬町實景二十二夜写所見  
迫る炎に逃げ惑う人々、建物に取り残され炎が勢よく迫る様子は危機迫るものがある。

二の図・観音小路實景同夜所見  
馬亭（現在の相馬楼）の玄関から飛び出す人々、また、二階から屋根を伝って逃げようとする二人の男。鰻亭の建物が火に包まれ、完全に崩壊しその下敷きとなり息絶えた人達の姿は痛々しい。

三の図・観音小路鰻亭惨状  
二十三日午前写之  
両側に炎が燃え立つ道に一人の男が倒れている様子を描いている。

四の図・以下於船場町 写生  
最も甚大な被害を受けた船場町の図だ。

黒焦げになった二人の子供や女の人など九人の遺体が事細かに描写されている。災害の悲惨さを物語っている。

五の図・今町弁天社内飯小屋  
今町の弁天社とは今の飯島神社である。飯小屋に住む被災者の模様が淡々と描かれている。そこには復興の兆しが見てとれる。

六の図・海光（向）寺  
海向寺が倒壊した図である。火の手は挙がっていない。

七の図・山王神社  
山王神社は下の山王神社を

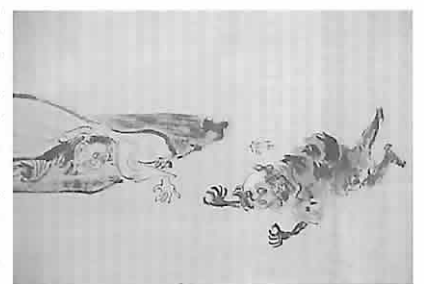
指す。屋根の原型は留めているものの、神社の内殿は完全に崩壊している。

八の図・晏祥寺 四日後大潰  
晏祥寺が四日後に大潰れと図に記されている。本堂の前の石塔が倒れ建物全体がかしんでいる。

九の図・祥（浄）福寺  
八の図とは異なり祥（浄）福寺が屋根から完全に倒壊している。

十の図・名称不記倒壊家屋の図  
木々の鬱蒼と繁る小高い所から見た景色であろうか。倒壊した家屋が描かれている。

『震災大実況図』は以下の文章で結ばれている。



四の図 最も死者を多く出した船場町の惨劇

この結び文を観るに、生駒大飛が『震災大実況図』を完成させたのは明治二十八年（一八九五）であるということがわかる。



# 読書感想文

## 想像力をふくらませて わくわくする世界

酒田市立平田小学校

六年 富樫 優



「たくさん想像できる人は、人を殺さない。」

悲しみが想像できるから——」

スリランカの内戦のことを語ってくれたセナの言葉が、私の胸にもすっと落ちてきた。

保育園の頃、自分から友達に話しかけれなかった私。

いつも泣いてばかりの、情けなくて恥ずかしい私。だから、

学校で一人ぼっちになった周の気持ちがよくわかる。素直に

言えないし、勇気がでない。自分が辛い思いをしているの

は、全て周りの人が悪いような気持ちになってしまう。

周は逃げるようにして、おじ

いちゃんのいるスリランカへ行く。スリランカといたら紅

茶の産地というのが頭に思い浮かんだ。でも、スリランカで

タミル人とシンハラ人との間に内戦があったことは知らな

かった。日本とは違う、強い民族意識があるのだ。そんな中、

周はタミル人の女の子ジャヤと出会う。ジャヤもシンハラ

人から差別を受け、辛い思いをしていたが、周とは少し

違った。周は、成績が良すぎたことがいじめられるきっかけ

になったから、好きな勉強になっ

たから、好きな勉強になっ

たから、好きな勉強になっ

たから、好きな勉強になっ

たから、好きな勉強になっ

たから、好きな勉強になっ

たから、好きな勉強になっ

たから、好きな勉強になっ

と周のおじいちゃんが言っていた。タミル人とシンハラ人

にもそれぞれの立場や思いがあるように、いじめる側にも

世界があるのだ。辛いことがあると自分のことしか見えな

い。心配してくれる友達さえも自分の世界から追い出して

しまう。世界を小さくしていたのは、もしかすると自分自

身なのではないだろうか。

周はスリランカに行って変わった。たくさんの人と出会い、

その人その人と親しく交わることを知ったのだ。都合良く人

の悪いところだけを見つけて、そこもきちんと理解したり、

受け入れたりすることで、友達との距離は、ぐっと縮まるん

じゃないかなと思う。セナが言っていた想像力って、もしか

したら人を好きになるためのものかもしれない。

本を読んでいたら、周と自分が重なって、一緒に旅をし

ている気分になった。一緒にどこどきしたり、友達のことを

考えたたりした。彼が学校に戻ってうまくやっている姿が

想像できる。周は、波の渦に巻き込まれて、自力ではどうし

ようもならない世界に遭遇したとき「ジタバタしないで通

りすぎるのを待つ」しかないときがあることや好きなことが自分を支えてくれることを

知った。私もこれから大きな困難がひかえているかもしれ

ない。だから今は想像力をきたえていこう。生きていけば、

わくわくするような新しい世界に出会えるし、楽しい出会い

が待っていると信じて！

《「茶畑のジャヤ」

中川なをみ著 鈴木出版》第六十二回青少年読書感想文

コンクール山形県審査会 小学校高学年課題図書の一部

最優秀

### 中町庁舎五階での

### 光丘文庫閲覧サービス

### 再開について

昨年八月から臨時休館して

おりました光丘文庫につきま

しては、新聞と雑誌を除く資料の移転作業等が終了したこ

とから、二月一日(水)より、市役所中町庁舎五階において

閲覧サービスを再開いたします。

なお、今回の移転に伴い、休館日が「土曜日・日曜日、祝日」

に変更となっておりますのでご注意ください。平日の来館

が困難な場合については、ご予約のうえ総合文化センター内の中央図書館で閲覧に供する方法による対応を行いますので、あらかじめ光丘文庫にご

相談をお願いいたします。

車でご来館の場合は、中央地下駐車場をご利用ください。

利用時間に応じて無料駐車券を発行します。

なお、新聞と雑誌については、平成二十九年度中に引き続き移転作業を行う予定であるほか、展示機能の再開については平成二十九年度後半以降となる見込みです。

【執筆者紹介】

丸山 至(酒田市長)

角田 分(日本白鳥の会理事)

山本 裕樹

(東北公益文科大学講師)

阿蘇 孝子

(酒田・詩の朗読会主宰)

佐藤 晶子

(月刊SPON元編集長)

田村 真一

(市立光丘文庫古典籍調査員)

富樫 優

(酒田市立平田小学校六年)

酒田市立図書館ホームページ

<http://library.city.sakata.jg.jp/>